

おおみやケアセンター 介護・医療連携推進会議 報告書

日時:2025 年 9 月 30 日(火)10:00~11:30

場所:おおみや診療所2階会議室

目的:さいたま市より指定を受けている地域密着型事業として、利用者様、利用者家族様、地域住民の皆様、区職員の皆様に対し、定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービス内容等を報告し、会議の参加者様から評価を受けるとともに、質問や意見、必要な要望や助言を頂き、あわせて運営の改善、公表を行います。

参加者 8名

10:00~ 自己紹介

10:10~ 定期巡回についての報告(おおみやケアセンター)

11:00~ 質疑

アンケート 非常に良かった2 良かった1

実際の事例を紹介頂いたことで利用者様に紹介する際にも役立ちました。定期巡回に関して勉強不足で今回の事例を通していろいろ学ぶことができました。

実際のケースが知ることができて良かった。

いつも大変お世話になっております。今後ともよろしくお願いいたします。

わからないことがあるときにいろいろ相談させて頂ければと思います。

先の見えないケースを受けて頂き助かりました。ありがとうございました。

お看取りのケースについて定期巡回利用した際、訪問入浴が利用できるのか。介護度にもよりますが、定期巡回と訪問入浴で限度額ぎりぎりになると思います。

定期巡回利用し、家族への介護指導を通して、家族が介護をできるようになり、定期巡回を卒業し、リハビリ中心のサービスとなった事例もあった。

他の訪問看護事業所との連携もするのか。

終末期の方、内服管理ができるサービス形態について、定期巡回、(看護)小規模多機能等、検討している利用者がいる。

他の訪問介護事業所への定期巡回事業の委託契約について

介護保険制度の改定について

利用者負担の対象拡大による影響

まずは、『利用者負担の対象拡大』です。介護保険サービス利用時の利用者の自己負担は原則 1 割であり、利用者の所得に応じて 2 割・3 割となります。2 割負担対象者の拡大は、24 年改正で予定されていましたが、物価高等の経済状況を配慮し、導入は見送られ、次期法改正での結論となりました。物価高は続いていますが、高水準で安定状態とも言えることから、次期改正では、対象拡大となる可能性は十分あります。

現在の 2 割負担対象者は、年間合計所得金額 160 万円以上の方(夫婦世帯収入等その他条件有り)であり、要介護認定者の 5%程度です。この基準をどこまで引き下げるかが最大の焦点です。しかしながら、自己負担の 2 割とは、支払い額が 2 倍となることを意味しますので、介護サービスの利用控えへと繋がり、適切な支援が得られなくなる可能性もあります。事業者にとっても利用控えによる収入減や、施設等での入居者獲得への制限が生じるなど影響は少なくありません。利用者への影響を最大限に考慮し、丁寧な議論が求められます。

ケアプランの利用者負担の導入による影響

続いては、『ケアプランの利用者負担の導入』です。こちらも 24 年改正でも活発に議論されましたが、今年は更に激論が予想されます。居宅介護支援事業におけるケアプラン作成を、他サービスと同様に利用者負担に設定するか否かが焦点です。

介護保険制度創設時、介護保険の入り口となる居宅介護支援は、制度活用を積極推進する観点から、利用者負担無しのサービスとなりましたが、すでに制度開始から 25 年が経過し、他と同様にすべきとの声が高まりつつあります。一方で、厚労省はケアマネジメントの在り方に関する専門検討会を設置し、ケアマネジャーの業務過多の状況への改善に向けた対策を講じる方針を昨年末に示しました。ケアプランの利用者負担が導入されれば、費用徴収における事務負担が増大します。慎重論の声も高まり、次期改正に向けては白熱した議論が予想されます。

軽度者改革・訪問介護と通所介護の要介護1・2の総合事業への移管による影響

そして最後は、『軽度者改革』『訪問介護と通所介護の要介護1・2の総合事業への移管』です。事業者は大変危惧しており、実現となれば、現場への影響

は多大であり、実現の可能性は低いと思います。今年の議論は、まず訪問介護における生活援助の移管を先行的に議論することになると思いますが、ルールのある方や、報酬上限など検討項目も多く簡単に議論は進まないと思います。それでも余談を許さず、議論のゆくえに注目が必要です。

まとめ

今回は業界への影響が大きい 3 つの項目に絞って解説しましたが、その他の項目も加えて、年内取りまとめに向けた議論が本格化していきます。報酬改定議論とともに、これから介護業界は大変重要な局面を迎えていくこととなります。情報収集をこまめにおこなうことをお勧めします。

振り返り

この間の実施状況やアンケートから事例紹介がわかりやすいとの回答が多かったため、今回も事例紹介を中心に報告を行ったが、参加者からの意見や感想を多く聞き取ることができなかった。次回開催に向けては事例紹介について、「目的」「考察」などを明確する、グループワークなど参加者が発言する機会を作ることができるようにする。